

令和3年度我孫子市自殺対策協議会 会議概要

(1) 会議の名称	令和3年度我孫子市自殺対策協議会						
(2) 開催日時	令和3年8月26日(木) 午後2時から午後3時まで						
(3) 開催場所	市役所議会棟 第一委員会室						
(4) 出席又は欠席した委員その他会議に出席した者の氏名 (傍聴人を除く) 出：出席 欠：欠席	委 員 (市職員以外)						
	出	出	欠	出	出	出	出
	出	出	欠	出	出	出	出
	欠	欠	欠	欠	欠		
	事務局出席						
	社会福祉課 (阿部課長、津川課長補佐、関口、秋山、高橋) 健康づくり支援課 (倉田) 障害福祉支援課 (殿谷)						
(5) 議題	(1) 我孫子市の自殺統計について (2) 我孫子市自殺対策計画について (3) 今後の自殺対策について						
(6) 公開・非公開の別	公開						
(7) 傍聴人の数 (会議を公開した場合)	傍聴人の数	0人					
(8) 会議の内容 (概要)							
発 言 者	内 容						
○健康福祉部 課長挨拶							
○8月より委員が改選されたため委員自己紹介							
○会長、副会長の選出。事務局の提案に対し委員の異議がなかったため会長を蓑下委員、副会長を玉村委員として選出。							
議題 1 我孫子市の自殺統計について							
蓑下会長	それでは、議題に入ります。 議題(1)「我孫子市の自殺統計」について、事務局より説明をお願いします。						
事務局	まず初めに、自殺対策の現状についてご説明させていただきます。						

自殺につきましては、主要先進7か国の中で、日本が一番高く自殺者数の累計は「毎年2万人」を超えるなど、非常事態と言える状況にあります。

我孫子市では、自殺対策を総合的かつ効率的に推進するために、平成22年に自殺予防対策に関わる関係機関及び団体等で構成する「我孫子市自殺対策協議会」を設置し、我孫子市の自殺対策に取り組み始めました。

また、平成28年には「自殺対策基本法」が改正され「自殺対策が“生きることの包括的な支援”」と位置づけられ、自殺を防ぐための計画策定が義務付けられ、平成30年12月に委員の皆さまのお力をいただき「我孫子市いのちを支え合う自殺対策計画」を策定し平成31年度からスタートさせています。

自殺の原因は健康問題や家庭問題、生活困窮など様々な社会的要因や病気等が複合して起こることが知られています。

また、その多くが追い込まれた末の死であり、自殺は個人の問題だけではなく、その多くを防ぐことのできる社会的な問題と考えられています。

誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指し、家庭・地域・NPO市民団体・学校・職場・専門機関等、様々な分野の人々や組織が連携し、生きることの包括的な支援を推進していくことが必要と考えています。

それではまず初めに、自殺の現状を説明させていただきますので「資料3の 令和2年 地域における自殺の基礎資料」の1ページ目をご覧ください。お配りしました資料のデータは厚生労働省の「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」から抜粋したものになります。

令和2年の全国の自殺者数は20,907人となり、前年から738人増加しています。千葉県の自殺者数は1,045人となり、前年より80人増加しています。我孫子市の自殺者数は21人となり、前年より10人増加しています。

近隣市では、松戸市が2人、野田市が2人、流山市が1人減少し、柏市が9人増加しています。

自殺死亡率につきましては、全国では16.44、千葉県は16.54となっています。なお、自殺死亡率とは、人口10万人に対する自殺者数です。

我孫子市は15.89で、前年より増加していますが、前年に続き全国、千葉県より下回ることになりました。

「令和2年の自殺者数の内訳」では男女ともに中高年の方が、健康問題や経済・生活問題、家庭問題等により多くの方が自殺に追い込まれています。

2ページの「地域の自殺の基礎資料」をご覧ください。

こちらは、我孫子市の平成23年から令和2年までの10年間の自殺者数や自殺死亡率等の累計データをまとめたものとなっています。

自殺者数の累計データは、全体で211人内訳として男性が140人、女性が71人となっています。

また、60代が39人と最も多く、その次に70代が36人となっています。男女比では、男性が自殺者総数の約7割を占め女性の2倍となっています。

令和2年の我孫子市のデータでは、40代の自殺者が一番多くなってきています。全国的には、若者や高齢者の自殺が問題視されてきていますが、我孫子市では中高年の自殺者が目立っています。

また、職業別では無職の方が多く、その中でも年金・雇用保険等生活者が多くなっています。

3ページをご覧ください。

原因・動機別では、健康問題としている方が116人と、全体の45%以上を占めています。

健康問題の内訳として、参考値となりますが県から提供のあった平成26年から30年までのデータによりますと、「健康問題」のうち「うつ病」の割合は約40%、身体的病気の割合は約30%、「統合失調症」の割合は約10%となっています。

また、「家庭問題」としての内訳としては、家族の将来悲観の割合が約25%、夫婦関係の不和が約20%、家族の死亡が約15%となっています。

	<p>5 ページ上の表は、我孫子市の平成22年から令和2年の男女別の自殺者数の推移になります。</p> <p>このグラフの通り我孫子市で男女ともに近年自殺者数は減少傾向にありましたが、令和2年では増加しました。</p> <p>次に下の表は、我孫子市の年代・男女別年齢別のグラフになります。</p> <p>男女別にみると男性では60代が一番高い26人、50代が25人、30代が22人となります。女性は70代が一番高く17人、その次に60代が多く13人と、60代から70代で40%以上を占めています。</p> <p>6 ページをご覧ください。</p> <p>こちらは上の表が職業別自殺者数の累計となっています。</p> <p>職業別で一番多いのは、年金・雇用保険等生活者となっています。また、全体の約70%が無職の方となっています。</p> <p>下の表は、原因別自殺者数の累計となっています。</p> <p>原因別では圧倒的に健康問題が多くなっています。1 ページでもお話しした通り、健康問題の多くは、うつ病の方が多いようです。</p> <p>次に7 ページをご覧ください。</p> <p>こちらは上の表が月別の自殺者数の累計、下の表は曜日別の累計を示したグラフになります。</p> <p>上の表をご覧くださいと2月が一番多く21人、次に多いのが3月の20人となっています。</p> <p>また、下の表の曜日別では「月曜日」が、最も多くなって、次に、金曜日の順となっていて、週の初めと終わりが、多くなっているようです。</p>
<p>葦下会長</p>	<p>ただ今、事務局より自殺の現状につきまして説明がありましたが、このことでご質問やご意見などございますか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>月曜日と金曜日に自殺者が多いとのことですが、月曜日は多いというのはよく知られているかと思います。金曜日については、休みの効果かもしれません。心理学の研究でクリスマスやお正月は自殺者数が多いと発表されています。</p>
<p>議題2 我孫子市自殺対策計画の現状について</p>	
<p>葦下会長</p>	<p>次に議題(2)「我孫子市自殺対策計画について」、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>計画につきましては、先ほども冒頭でご説明させていただきましたが、現状の把握と分析をさらに進め、効果的に自殺対策の施策を展開していく必要があることから、本市の自殺対策を推進する計画として平成31年度からスタートしています。</p> <p>また、市民の誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現に向けて、生きることの包括的な支援(自殺対策)をみんなで推進し、かけがえのない命を支え合うこととしています。</p> <p>なお、この計画ではいのちを支え合う施策として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりへの周知啓発と心の健康づくり ・適切な相談と支援につなげるネットワークの構築 ・命を支える人材の養成 ・様々な対象に応じた自殺対策の展開 <p>の4つを掲げています。</p> <p>また、施策にぶら下がる施策の推進としての「取り組み状況は、9つ」「主な取り組みは、93事業」となっています。</p>

それでは、資料4の評価指標一覧に基づいて説明します。
こちらは「我孫子市いのちを支え合う自殺対策計画」の評価指標の昨年度の実績になります。

本日は2019年度から2020年度にかけて実績が低くなった指標についてご説明します。

まず指標①の「ゲートキーパー」の役割を知っていた人の割合です。昨年度は、今までゲートキーパー研修を開催したことのない対象者へ研修を行いました。そのため、実績は低くなりましたが、ゲートキーパーについて知らなかった方に対して周知することができました。ゲートキーパー研修については後ほど詳しく説明します。

次に指標②の「多関係機関との連携強化を図った会議・研修会の開催数」です。昨年度は、新型コロナウイルスの関係で会議自体が開催できなかったため回数は0回となりました。

次に指標④の「地域における高齢者の参加の場への延べ参加者数」です。こちらも昨年度は、新型コロナウイルスの関係で施設の開所ができない期間があり、参加者が少なくなりました。

最後に指標⑥の「勤務問題に関する相談を受け、相談者に対して適切な情報提供や助言した延べ件数」についてです。こちらは数字で見ると減少しています。企業立地推進課で行っている職業相談件数に関しては、相談室へ来所した件数となっております。昨年度は電話等で相談の問い合わせがあり、相談機関を紹介した件数は増加したとのことでした。

また、我孫子市いのちを支え合う自殺対策計画のサブタイトルにもあります、「ゲートキーパー」についても説明させていただきます。

昨年度は、市役所職員、健康づくり推進員等、計4回ゲートキーパー研修を開催し、254名が参加しました。

また、研修内容を撮影し、我孫子市のYouTubeへ掲載しました。

その中でゲートキーパーの役割を知っていた方が20.7%とまだまだ知らない方が多いことが分かりました。

また、受講者の中で今までに自殺に関する相談を受けたことのある方は17.2%でした。

今後の自殺対策でどのような対策が大切だと思うか、というアンケートに対し、「自殺を試みた方の意見を実際に見聞きする場を設けてほしい」との意見がありました。今後このようなことも参考にゲートキーパー研修を開催していこうと思います。

そして、様々な分野の人々や組織が密接に連携し、誰も自殺に追い込まれることのない、みんながゲートキーパーのまち「我孫子」を目指し、かけがえのない命を支え合います。

蓑下会長

ただ今、事務局より自殺の現状につきまして説明がありましたが、このことでご質問やご意見などございますか。
(意見なし)

議題3 今後の自殺対策について

蓑下会長

次に議題(3)「今後の自殺対策について」、事務局より説明をお願いします。

事務局

我孫子市では、昨年に引き続き、今年も自殺者数は増加しています。
今年度の我孫子市の自殺対策として、リーフレットとポケットティッシュを各施設等に配布しました。リーフレットにはゲートキーパーについてや相談窓口一覧を記載しています。ポケットティッシュには悩みを抱えている方向けにイラストや24時間電話相談を対応しているよりそいホットラインの電話番号を記載しています。また、配布先にお心当たりがございましたらお声かけをいただければと思いますので宜しくお願い致します。

最後に、議題には載せていませんが、厚生労働省が委託しているいのち支える自殺対策推進センターが昨年のコロナ禍における自殺の実態として発表していますので、内容を共有します。

資料5の「コロナ禍における自殺の実態」をご覧ください。

この表は平成31年、令和2年の全国の月別自殺者数の推移をまとめたものになります。

令和2年1月から6月までは平成31年の同月より減少しています。

人々は、社会的危機の最中、あるいは直後には死への恐怖等が高まり、自殺者数が減少することが、多くの研究から明らかになっています。

令和2年4月は著名人の急死の報道や、初めての緊急事態宣言の発令等がありました。

このことから、令和2年6月以前は、新型コロナウイルス感染症による死への恐怖によって人々が自身の命を守ろうとする意識が高まり、前年より自殺者数が減少した可能性があります。

このころ、「今までは、生きるのが大変なのは自分だけだと思っていたが、社会全体が自分と同じような状況になってほっとした」や「みんなが自分と同じようなつらい経験をしているのを見て、気持ちが楽になった」といった声が聞かれるようになりました。自殺のリスクを抱えた人たちが、このような思いになったことで、この期間は自殺者数が減少したとも考えられます。

令和2年7月以降は、平成31年の同月よりも自殺者数が増加しています。また、7月以降は女性の自殺が増加しています。その背景には、経済や生活問題、勤務問題、DV被害や育児の悩み等、様々な要因があります。

また、新型コロナウイルスの影響で、人と接する機会や場が少なくなったことにより、出産後の「産後うつ」が以前の2倍以上に増えており、女性の自殺リスクがさらに高まっていくことが懸念されています。

再度、表をご覧ください。

表に記載されています星印は著名人の自殺について報道された時期になります。報道後、自殺者数は増加しています。著名人の自殺報道によって死にたい気持ちが呼び起こされてしまった等の相談が増えたようです。

また、緊急事態宣言等による学校の休校が要因で自殺を試みる学生が増えたとの報告があります。「休校明けのクラスになじめない」や「家族がずっと家にいてイライラしており、ストレスのはけ口にされている」等の相談が来ているようです。

今年も我孫子市では1月から6月の自殺者数は10人となっています。新型コロナウイルス流行前に比べると増加傾向にあります。

今後の自殺リスクを低下させるため、様々な分野の支援が重要となりますので関連機関と協力して支援をすることが大切です。

蓑下会長

ただ今、事務局より今後の自殺対策について説明がありましたが、このことでご質問やご意見などございますか。また、全体をとおしてご質問やご意見などございますか。

柳瀬委員

資料を見て、2019年までは自殺者数が下がってきたと話題になっていましたが、また増えてきてしまいましたね。昨年自殺で亡くなった21名の方は、相談機関等に繋がっていなかったのか、それとも相談機関等に繋がっていたが防ぐことのできない自殺だったのか、あるいは本当に孤独の中の自殺だったのかという分析があるのでしょうか。市役所や医療機関等に繋がっていたけど自殺で亡くなった方は、どこで自殺を防ぐことができるのでしょうか。そのような点から、自殺で亡くなった方が市役所や相談機関等に繋がっていたかどうかの分析も必要になってくるのではないかと思います。

福島委員

資料4の「ゲートキーパーについての役割を知っていた人の割合」について目標の30%に対して、昨年は20.7%とのことでしたので、今後「ゲートキーパー」について知ってもらうための対策が大切だと思いました。また、ゲートキーパーについて知ってもらうことも大切だと思いますが、自分が困ったときに助けてもらえるような人間関係作りも大切だと思いました。

蓑下会長

日頃誰でも落ち込むことがあると思います。その時に身近に話を聴いてくれる方がいるといいと思います。健康な方がやっていると、自然にゲートキーパーが身につくことができるかもしれません。そのようなことが教育に組み込まれるといいなと思います。

渡辺委員	以前、「死にたい」と相談を受けた際に、ひとりで抱え込んでしまい沈んでしまったため、ひとりで抱え込まず繋ぐことが大切だと思いました。
尾上委員	今回、委員になって資料を見て初めて「ゲートキーパー」というものを知りました。自殺者が多いというのは日頃から感じていました。今、コロナ禍で孤立している方が多いと思うので、そのような方をどのように見つけていくのが大切だと思います。如何に情報を共有できるかが大切になってくるのかなと思いました。
玉村委員	ゲートキーパーとしての役割を果たすことも大切ですが、ゲートキーパーになった方のケアも同時に考えていかなければいけないと思いました。今後もコロナ禍で自殺者数が増えてくると、自殺者にかかわってくる方も増えてきますので、共倒れにならないようにケアしていくことが今後の課題になるのかなと思います。
蓑下会長	貴重なご意見ありがとうございます。 続きまして、今後の自殺対策について何かご意見があればお願いします。
蓑下会長	資料5の説明の際に「子育て中のステイホームが辛い」とありましたが、市がゲートキーパーについてYouTubeで配信したとありましたので、子育て関連についてもYouTube等で発信するのは如何でしょうか。悩んでいる方はYouTube等見ている方が多いようですので、良い情報を発信出来たらいいのかなと思います。
尾上委員	リーフレット等を身近に感じられるといいかなと思います。
柳瀬委員	インターネットで情報を得ることのできない人もいますので、リーフレットに記載されているような情報が身近にあればいいなと思います。電話相談等なかなか繋がらないところもありますが、相談したいときにすぐ相談できる場所があればいいのかなと思います。
福島委員	リーフレットを目にしたことがあまりないため、対策はされているかと思いますが周知が必要かと思いました。広報に特集記事として載せるや、健康問題が多いとのことなので病院に設置等できればと思います。
玉村委員	リーフレットを等市民に届いていないのが課題だと思います。SNSやホームページ等を使って如何に市民に情報を届けることができるのが大切だと思います。
蓑下会長	このような情報は埋もれてしまいますので、定期的に発信するといいいのかもしれない。
事務局	SNSやYouTube等に関しては、ガイドラインがありますのでそちらに沿って検討させていただきます。
蓑下会長	それでは、これを持ちまして、令和3年度第1回我孫子市自殺対策協議会を閉会いたします。本日はお忙しい中ありがとうございます。
以上	